



THE Y'S MEN'S CLUB OF IBARAKI

CHARTERED 2006



茨城ワイズメンズクラブ
2018年度~2019年度
8月報 Vor. 120
強調月間テーマ

国際会長主題 : 私たちは変えられる
アジア地域会長主題 : Action
東日本区理事主題 : 為せば、成る
関東東部部長方針 : YMCAを支える
茨城ワイズ会長主題 : 「ワイズはYMCAの「お兄ちゃん」へ！」

評価

8月例会プログラム

と き : 2018年8月17日 (金)
19:00~21:00
と ころ : YMCA会館新館3階

司会 土谷 明男

開会挨拶と点鐘 会長 土谷 明男
ワイズソング
ワイズ信条

- 1 自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1 青少年のために YMCAに尽くそう
- 1 世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1 義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとうろ
- 1 会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・食前感謝

まつりつくば準備

関東東部部長訪問
ハッピーバースデー&
おめでとう結婚記念日

スマイル ドライバー

報告と協議

茨城YMCA報告 大澤 篤人

開会挨拶と点鐘 会長 土谷 明男

今月の聖句

御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、
自制です。 ガラテヤ人への手紙 5章 22節 23節

改めて、ワイズと私とみなさんと

村田 あつし

先日、例会の日ではなかったのですが、出張でつくばを訪れた際に、土谷会長とお会いすることができました。既にある程度食事をした後だったので、少し移動してコメダ珈琲で2人、夜の密会です。

ワイズのこと、それ以外のことも含めていろいろと話をすることができました。例会やイベントではよく顔を合わせているものの、2人きりでこうして心行くまで言葉を交わしたのは初めてのことで、新鮮な体験でした。

YMCAを、そしてワイズを通して、これまで会うことのなかった(素敵な!)人と繋がりを持てたこと、月並みですがこれこそがワイズに人々が集う最も根源的な要素であると私は考えています。ワイズがそんな素敵な場であるためにはどうすればよいか、どうあればよいか、そんなことを考えながら、今後も微力ながら活動を続けていきたいと思っています。

今回、末尾にYMCAスタッフの言葉を掲載しました。彼女らのみずみずしい感受性から放たれる言葉に、私も力をもらいました。この感受性、人間性こそがYMCAのかけがえのない無形資産だと思います。みなさんもぜひその言葉に触れてみてください。

◆ワイズの目的は『YMCAの活動を支援する』となっております。その1つとしてYMCA維持会員になっていただいております。まだ維持会員登録をされていない方は、大澤までお申し出下さい。YMCAは会員団体であり、YMCAは会員に支えられ地域に根ざした活動を展開しております。維持会員とは、YMCAの使命に賛同し、その運動に主体的に参加し、YMCAの維持、発展に寄与することを願う会員です。

7月例会報告

出席者 会員4名 メネット 1名
スタッフ 19名 リーダー 0名
ゲスト1名 出席総数 24名
在籍者会員数 13名 会員出席率 31%

【 茨城ワイズ 7月例会報告 】

5月例会は、平日昼間の開催となりました。
所沢クラブより、大澤和子様をお招きしまして、主に茨城YMCAのスタッフの方々を対象とした研修「気になる子どもたちの理解と配慮」を実施いたしました。
まず、現在の学童保育が抱える問題点やADHDが疑われる子への対処についての講演が行われました。その後、4人1グループの形で以下の実習を行いました。
・ソーシャルスキルトレーニング「ちょこっとチャット」体験
⇒質問カード「パープル版(小学校高学年・中学生向け)」を順番にめぐり、質問にこたえていった。
・「ロールプレイング」体験
配役(生徒と先生)を決め、台本のセリフの空欄を考えて演じた。

今回、研修終了後にYMCAスタッフから寄せられた感想を大澤様より共有していただきました。研修の内容がより伝わるものと考えましたので、別項にて無記名で転記いたします。どうぞご覧ください。

今回は新年度ということもあり、新たな試みとしてワイズメンズクラブにてスタッフ向けの研修を企画いたしました。茨城クラブは、ワイズメンズクラブがYMCAに果たす役割を考えながら、従来の概念に捉われない形での例会、活動のあり方を探っていきたくと考えています。

<写真：研修の様子/終了後の懇親会>



茨城 YMCA 報告 大澤 篤人

7月の予定

- 1日 小学生デイキャンプクラブ つくんこクラブ
- 2日 早天祈祷会
- 2日 主任会
- 4日 職員礼拝・職員会
- 6日 児童クラブ研修会
- 6-7日 全国YMCA 発達支援担当者会
- 6-8日 夏キャンプリーダートレーニング@野尻湖キャンプ場
- 10日 牛久センター運営委員会
- 12日- ICCPJ 受け入れ
- 14日 野尻湖キャンプ顔合わせ会
- 14日 障がい児・者自立支援活動 たんぽぽクラブ
- 15日 未就学児デイキャンプクラブ わんぱくクラブ
- 20日 YMCA 幼保園1学期終了
- 21日 YMCA 幼保園体験会
- 21日 東新井学童高学年お出かけ会
- 22-24日 東日本大震災復興支援キャンプ「スマイルキャンプ」

- 23日 児童クラブサマースクール開始
- 27-31日 野尻湖キャンプ
- 28-29日 うしくかっぱ祭り
- 31-8/3 モンゴル訪問プログラム

8月の予定

- 1-2日 フットサル合宿
- 2-3日 二葉こども園白組キャンプ派遣
- 4日 アドベンチャーキャンプ顔合わせ会
- 4日 主任会・職員会・キリスト教理解研修
- 10日 キャンプエルマー前日準備会
- 11-13日 キャンプエルマー
- 12日 ICCPJ 受け入れ終了
- 12-16日 お盆休館
- 11-18日 オリーブ保育園休園協力日
- 16-17日 チャレンジキッズキャンプ
- 22-24日 アドベンチャーキャンプ
- 25-26日 まつりつくば
- 25日 障がい児・者自立支援活動 たんぽぽクラブ
- 25日 中高生デイキャンプクラブ ユースクラブ

夏キャンプ真っ盛りの季節です!

みなさんお気をつけて良き思い出を作ってください!

【 編集後記 】

暑い夏です!
暑かったり汗をかくのは嫌いではないのですが、どうしても夜は快適な眠りからは遠ざかりますし、ワイシャツとスラックスを着て都内を歩き回るのは辛いものがあります。わずか10年ほど前までは真夏もネクタイ・ジャケットを着用していたのが信じられません。

西日本での水害など災害も続いています。夏も終盤ですが、みなさまお身体ご自愛くださいませ。(村田)

<近況写真(今月は多めに、)>
山梨といえば「ほうとう」ですが、同じ麺を使った「おざら」も夏に好まれる食べ物だそうです。ほうとうは味噌ベースですが、こちらは醤油ベース。つけ麺のようにつけ汁につけて食べます。白州のサントリー工場にも寄ってきました。



折からのウイスキーブームで、工場のショップも欠品が目立っていました。私はお酒のなかではウイスキーが好きなのですが、ますます遠ざかりそうだ。

沖縄は最近毎月仕事で行くようになりました。左は先月の編集後記にて言及した那覇市内の緑色の川と青空。右は、那覇空港を離陸した直後に撮影したものです。



おりしもこの日は非常に強い台風8号が宮古・石垣に接近しており、欠航が相次ぐなか何とか飛び立ったものです。離陸直後は今までに経験したことのない縦揺れが何度も襲いましたが、台風の雲を抜けるとそれはそれは綺麗な夕暮れが見え、夢中になってiPhoneで撮影したものです。

7月例会/研修会 茨城YMCAスタッフの感想

☆ 小学校現場での実際の話がとても心に残りました。黒板をきれいにした男の子、しからぬで指で合図しながら話を続ける、しっかりした女子をサポートにして頼るなど、大澤さんの指導一つ一つがとても勉強になったし、その指導で救われた子どもたちがたくさんいたのだと思いました。また、私も実際に子どもを叱っている時に、ふと我に返るときがあり「愛」をもって子どもにかかわっているのか不安になるときがあるので、子どもたちの居場所となるような学童を作っていきたいと思えます。気になる子、ADHDの子にしっかりと向き合っ、一つ一つの声掛けを大事にしていきます。どんな子であってもパステルカラーのように、いろいろな工夫で輝けるようにしてあげたいです。

★ 共感・受容タイプの対応を具体的に、ハウツーも含めて話してもらえて、とてもよかったです。また叱ること、注意することが苦手の指導員も多いので、そこも重要だという話もしてもらえてよかったです。「子どもへのまなざし」「ちょこっとチャット」覚えておきます。受容的な対応かどうか考えるようにすること。今回参加できなかった方にも、伝わるように考えていく。

☆ 共感的タイプ、受容的タイプの先生 日ごろから「どうしてそんなことをしてしまったか?」「どうしてそんなことをされたか」を双方に聞いて解決できるように関わってきたつもりだが、どうしても危険な時、叱責タイプで起こってしまう時もある。今日、ロールプレイングをやってみて、初めて子供の気持ちがわかった。子どもの気持ちも体験したので、その子に合った対応(ほめる、話し方)をして寄り添いたい。パステルゾーンの子との関りが難しい時もあり、逃げていた時もあったので正面から向き合い、共に成長したい。

★ 問題行動をとる児童たちに、具体的にどのような対処をするのかの例をいくつか学べたのはよかった。横並びの手段行動をとれるような子どもに育てるのが良いのか、集団の中で個性をどうのばしてゆくか課題と感じた。今後も、このような研修会に参加して、学んでいきたい。

☆ さっそく、何回もくどくど叱責せず、注意は短く具体的に、感情的に叱らず、本人の行動に気が付くように注意する。注意するときはクラスの中ではなく個人的に勉強になりました。子どもたちにとって、学童が安全で居心地の良い空間になるようにしたいと思います。

★ 「愛」が一番重要だという考え方には、クリスチャンとして非常に共感できた。しかし、「伝わらなければ意味がない」と仰られたのは真実で、ノウハウをもっと意識する必要性を改めて感じた。福祉的な学びを思い出している。「受容」「共感」、視覚的に訴えることなどを実現していきたい。ただし「注意する」ことも必要で、いかに短く注意できるかについて、よく考えておくべきだと感じた。〇〇センターの弱いところに「視覚的配慮」があることを常々感じており、これを機に具体的に取っ掛いていきたい。また、私の場合は「注意すること」をついついないがしろにしがちなので、こちらも意識してこれからの保育に臨んで身に着けていこうと感じた。

☆ 「パステルゾーンの子ども」というワードに少しときめいた。色はあるのにグレーと表現される子どもたちにも配慮された素晴らしい言葉だと思った。高学年や、パステルの子、保護者まで通じる接し方を教えてもらったことで、今後の仕事に生かしていけると感じました。叱ること、注意することが多い私ですが、受容することや認めることを忘れずに保育に当たりたいと思う。

★ 大澤さんの人柄がとてもよく、話し方もわかりやすく、頭にストンと落ちてきた。今回特に、「受容して話を聞く」がとても心に残った。今まで、子どもの話をこち

らが必要以上に評価や解釈を加えてしまう場面があった。自分は、子どもたちに何か注意をしなければいけない場面の時にどうしても叱るところから入ってしまったので、質問を何回も繰り返し、その子ども自身の「気持ち」をちゃんと引き出すやり方を身に付けていこうと感じた。

☆ 子どもの話をまずしっかりと聞くことは大切なんだと再認識させられました。一人遊びの子や、高学年の子もその状態が本人が望んで一人なのか、そうでないのかによって、問題が変化するなども感じた。ロールプレイングは、一人ではできないものなので、行う機会を持つことができてよかった。一人一人の子どもには、個性があり、同じ形で会話が進むとは限らないので、今後も職員同士、また保護者も含めて、情報を共有して、より良い成長につなげるように、対応できるように努めていきたい。保護者とのかわりにおいて、もう少し、話をする時間を設けて、関係を作っていけたらよいと思った。

★ どんなタイプの子どもであっても、子どもをほめて認めることが最大の支援であることが分かった。特別配慮の必要な子についてのほかに、一人遊びの子や高学年の子に対しての支援についても、もう少し深く説明をしてほしかったと思う。ちょこっとチャットは保護者会で使用してみたい。今までと同様に、子どもをほめること、認めること、一緒になって考えることを継続していきたい。また、多種多様な子どもが児童クラブに来ることが楽しくなるように環境を整えていきたい。

☆ ADHD・気になる子どもたちに対しての支援の在り方の講演がおきき出来てとても勉強になりました。ロールプレイングが体験できて、お互いの気持ちを感じることができてよかったです。この研修を働きの中で取り入れていけるように考えながら、保育に当たりたい。

★ 子どもをほめることばとしての「さしすせそ」が役立ちそうです。時間が少ない中で、大切な言葉「Key ward」を学ぶことができました。学んだことを実践で生かせるように、支援する必要があると感じています。

☆ 共感の重要性が良く理解できました。叱責される児童の立場に立ったロールプレイを行ったことで、その子の心情がある程度実感でき良かった。集団行動がとれない子に落後者の烙印を押し付けてしまう現在の社会傾向を再考するよい機会になった。

★ 「愛」のある口先でないほめ方。私たちにもできる何かがある。やることはやる!

☆ パステルゾーン(キラキラした言葉)素敵言葉だと思いました。さしすせそのほめ言葉を使っていきたいです。

★ 頭の中で分かっていることでも、なかなか現場で直面した時にすべて研修通りに支援指導できないことがあった。今日の研修も参加でき嬉しいです。この研修では、日々子どもとかかわる毎日に、たくさん使っていこうと思いました。思いましたではなく使います。子どもたちの笑顔が何よりの活力になり、心を込めた「愛」のある支援、指導員になりたいです。とても勇気づけられました。とても素晴らしい研修をありがとうございました。これから、この先に直面するとき、声かけ、注意は短く、心ある愛のあるほめ方、等々、信頼関係を築いていけるように努力したい。

☆ ADHDであろうとなかろうと、子どもたちは一緒に何より自信をつけるための成功体験を増やすことが大切だなと思いました。「僕だってできる」など自分の力で解決した喜びを感じれる。そして好ましい行動はすぐほめることが大切だなと思いました。コミュニケーションをたくさん取ろうと思いました。

★ ”パステルゾーン”は印象が変わる言葉でいいなあと思った。”グレー”だとマイナスなイメージがどうして

もついてしまう気がしていたので少しでもキラキラした印象が広まってほしい。また、対応がわかっている現場で思うようにできないことが多く、今日研修を受けながら「あの時の声掛けはダメだったな～」と振り返ることが多かった。今日ここで気づけたことが良かった。「あの声掛けは、こうすればもっと良くなる」と思うこともあったので、実践できるようにしたい。パステルゾーンの子だけではなく、周りの子も「どうしてあの子ばかり」という気持ちを持つ子も少なくない。どうかかわりを持ち、理解をしていくか意識していきたい。

☆ 茨城 YMCA に入り、子どもたちの対応に悩んでいた時期でしたので、とても参考になりました。様々な子への言葉がけでつい叱責してしまうことがあるので、今後、改善していきたいと思います。またロールプレイを通して叱責された子供の気持ちを理解することができました。子どもへのほめ方「さしすせそ」さっそく使っていきたいと思います。